
消えない傷 = 消えない罪

瑠依

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

消えない傷〃消えない罪

【Zマーク】

Z4963A

【作者名】

瑠依

【あらすじ】

妊娠と中絶…中絶という言葉があまりにも氾濫しそぎた世の中で私が体験したほぼ実話です。女性にしか実際は分からぬ事ですが男性にも是非読んで頂きたいと思います。今一度命の重さとは…と考えてみてください。

1・真逆の決断

今日も空は青い私の心は決して晴れることはないのに…

テレビCMに赤ちゃんが出てくる度に涙が溢れてとまらない
私はいつまでもこの罪に縛られていくのだろう…

薄暗く冷たい手術室に一步足を踏み入れた時足がすくんで動けなか
つた

私がこれから犯すのは殺人
それは紛れもない事実だった…

『ねえ…妊娠したんだけど…』

いくらか戸惑いのある表情で告げる唇が震えている

『あ…そう』

驚きに目を見開いて明らかに動搖している

大の男が情けない…心底そう思つた…

『ああこれは無理だ』

少しの期待を込めて重大事実を告げた私は絶望の淵に落とされた。

『墮ろす?』

精一杯の強がり

涙はもうそこまで来ている田舎の裏をしきりにノックしている

ヤメテ…

出てこないで…

『じめん… だつて産んでも生活できない… そんな金お互いないだろ
?』

『そりだね、お互いの責任だしね… お金は半々でいいでしょ?』

『…』

重苦しい空間に沈黙が痛い

もう限界だ…

『じゃあね、手術の日はメールする』

人もまばらになつた深夜のファミレス
コーヒーのみの伝票に手を伸ばしたとき手の甲に一粒涙が落ちた
足早にレジに伝票と千円を置いて走りだす

溢れだしたものは止まらない、後から後から…
マスカラに汚された黒い涙が頬を伝う

軽い気持ちで手にした検査薬。指示示すのは陽性の赤いシルシ

その瞬間に芽生えた喜びと少しの母性

【私の中に命がいるんだ】

分かつた瞬間からあれだけ止められなかつた煙草も止めた。

高いヒールも止めた。

頭の中はそれでいっぱいだつた。

こんな事になるなんて…

浅はかな自分を心底憎んだ

この子を殺すなら一緒に死のう… そう思つた

どうせ家に帰り着いたか記憶がない。

気付けば私の左腕は血にまみれていた。痛みなんて感じなかつた。血が流れだすのに比例して涙もとめどなく流れ続けた。

ドクドクと血が溢れてゆくのに回鶴するかのように体中が脈打つ

『寒い…』

ゆっくりと床に傾れ込む

『ママと一緒にこうか』これずっと永遠に一緒に嬉しかつた：

遠退く意識の中でお腹に手を当ててわが子の存在を確かめるかの様に眠りに着いた…

2・罪の幻

深い深い沼に沈んでゆく様に意識が下降してゆく

ああ私死ぬんだあ

他人事のように客観的な目線で呟いた
暗い暗い広い空間にたたずむ私の前にぼんやりとした光が現れた

5歳位の男の子

青いTシャツに小さな子供用のジーンズを履いて寂しそうに俯いて
いた。

腰を屈めて田線を合わせるように問いかける。

その子はゆっくりと顔を上げて真っすぐに私を見る。【アイツによ
く似てる…】

茫然とその子の顔を見ることしか出来なかつた

『一緒に嫌だよ』

『え…?』

『死ぬのは僕だけでいいんだ。ママと一緒に死ぬなんて僕は嫌だ!..』

バットで殴られた様な衝撃だつた。
一瞬、言葉の理解が出来なかつた。

まさか自分がめぐらしあるアリババのファンシーーンの当事者にならうとは

それと同時に得た確証。

この子は私の子供

何年か後のこの…今は豆粒ほど弱でしかなっここの子の姿。

芽生えることおじと罪悪感

真つすぐに私を見つめる瞳の美しさに動きを止められたがつた。

喉がカラカラで上手く声が出ない。

『私はあなたを産んであげられないこの…その勇気がなかつたの…でもあなたと一緒に居たいから、あなたとずっと一緒に居れる方法はこれしか分からなかつた…最低なママだよね…ごめん、ごめんね…』

涙が溢れて言葉にならない何度謝っても足りない。

私はただ自分のHGTを正当化しただけだつたんだ

この夢もきつとひかだ…縋り付くように小さな肩を抱き締める。

ちやんと柔らかい感触も温もりもある。その子はただ寂しそうに悲しそうに私を見つめるだけ。どうすればいいのか分からぬ…

ただ今はこの子がとても愛おしい…

『僕は死んじやつてしまつてんだよ…またママの所に飛んでくるから。ママが死んじやつたらもう僕はママの所にこれないんだよ。だからママは死なないで。』

『ママは死んでくれるの?…私を…』

ここでじてじて謝罪の言葉が反芻していく。心で母の心

『とにかく頭なっこか頭なっこ…』

『パパ泣いてたよ?』

『え…?』

『パパずっと泣いてたよ。ごめんな、ホントはお前に会いたいよ。でも今はお前もママも不幸にしてしまつから…って』
アイツはパパなんかじゃない。ハッキリとした事も言わず決断もなくあなたを否定した男。
許せなかつた

『産んでほしい』と言つてほしかつた…

でも一人でも産む決意が出来なかつた私も同じだね。あいつの事をとやかく言える立場ではないんだ…

私の罪悪感が生み出した幻か夢を目の前に私はただただ泣くことしか出来なかつた。

『泣かないでママ…僕は大丈夫だよ。ママは幸せになつて。ほらパパが来たよ。泣かないで、僕がいなくなる時まで笑つていてね』

徐々に薄くなるわが子の姿

【消えちやう…】

『待つて!行かないで!一人にしないで!』

『ママは一人じゃないよ。パパもいる。僕もずっと見てるから』

笑つて消えてゆく

初めて見れた笑顔

その姿は薄く薄く小さな光になり私のお腹に消えていった

『行かないで……』

空になつた腕の中
遠くで声が聞こえる

そしてまた私の意識は遠ざかっていった…

『行かないで……』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4963a/>

消えない傷＝消えない罪

2010年12月5日05時53分発行